

令和 8 年 5 月 8 日

水痘の流行（注意報発令）について

1 概要

感染症発生動向調査事業に基づく水痘の報告数が、第 18 週（4/27～5/3）に 1 医療機関当たり 1.06 人となり、注意報基準である 1.0 人を超えました。

感染予防のため、こまめな手洗いや咳エチケットを心がけてください。

2 発生状況

大分県の水痘発生状況

週別水痘報告数(大分県、全国)

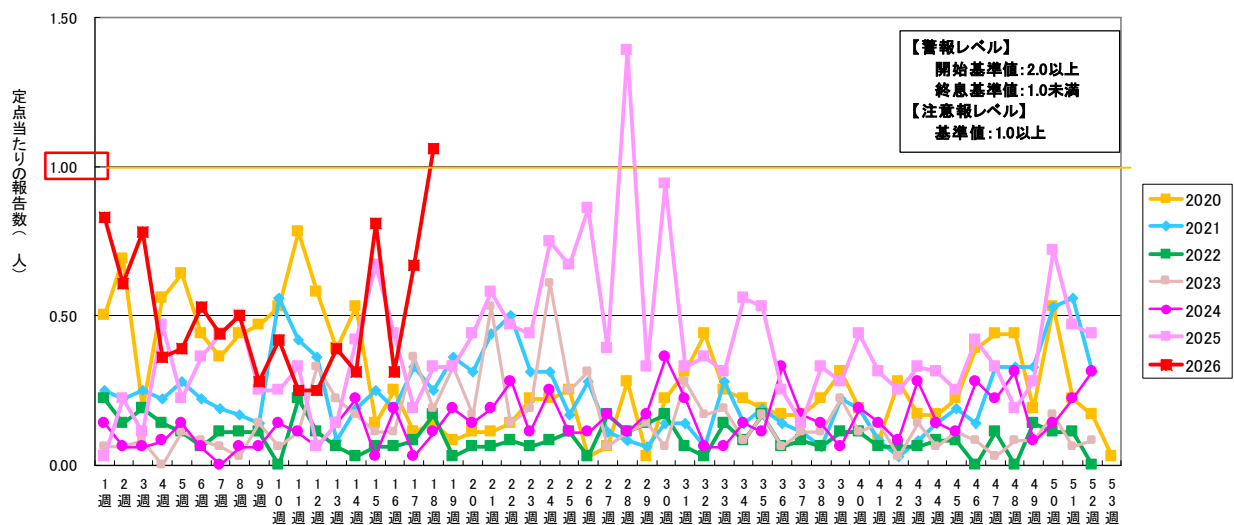
	大分県(定点36力所)		全国			
	報告数	定点当たり	報告数	定点当たり		
2026年	7週	2/9 ~ 2/15	16	0.44	683	0.30
	8週	2/16 ~ 2/22	18	0.50	749	0.33
	9週	2/23 ~ 3/1	10	0.28	663	0.29
	10週	3/2 ~ 3/8	15	0.42	757	0.33
	11週	3/9 ~ 3/15	9	0.25	701	0.30
	12週	3/16 ~ 3/22	9	0.25	781	0.34
	13週	3/23 ~ 3/29	14	0.39	724	0.32
	14週	3/30 ~ 4/5	11	0.31	738	0.32
	15週	4/6 ~ 4/12	29	0.81	736	0.33
	16週	4/13 ~ 4/19	11	0.31	726	0.32
	17週	4/20 ~ 4/26	24	0.67	861	0.38
	18週	4/27 ~ 5/3	38	1.06		

大分県感染症発生動向調査事業

保健所別の状況

18週	報告数	定点当たり
総数	38	1.06
東部	3	0.43
中部	0	0.00
南部	0	0.00
豊肥	0	0.00
西部	1	0.33
北部	2	0.33
大分市	32	2.91

大分県の水痘発生状況



3 感染予防策等について

(1) 水痘とは

水痘とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘・帯状疱疹ウイルスの感染によって引き起こされ、かゆみを伴う発疹が全身に出現する感染症です。主に小児に多くみられ、通常は予後良好です。しかし、子どもの頃に水痘に罹患していない、あるいはワクチン接種を受けていない方が大人になって感染すると重症化しやすいことが知られています。

また、妊婦、乳児、免疫不全の方は重症化のリスクが高く、感染すると症状が重くなったり、肺炎や脳炎などの合併症を起こしやすいことから特に注意が必要です。

(2) 症状

感染から2週間程度(10日~21日)の潜伏期間の後に、発熱、全身に水疱状の発疹が出現します。典型的な症例では、発疹は皮膚の表面が赤くなる紅斑から始まって、水疱、膿疱(粘度のある液体が含まれる水疱)を経て痂皮化(かさぶたになること)したあとに治癒するとされています。発疹は顔面、頭皮、体幹に多く、その後四肢に広がり、激しいかゆみを伴います。

その他、頭痛、倦怠感、食欲不振、咳、鼻水などの症状も見られます。

(3) 感染経路

水痘・帯状疱疹ウイルスは感染力が強く、空気感染、飛沫感染および接触感染によって広がります。家庭のほか、学校などの施設内でも感染の伝播がみられます。

(4) 予防方法

水痘中にはウイルスが多く含まれていることから、水疱に触れた後は、ハンドソープを使って確実に手を洗いましょう。また、家庭内での感染を防ぐためにタオルの共用を避けるといった接触感染対策も重要です。

また、空気感染するため、手洗いやマスクのみでは感染を防ぐことができません。そのため、予防接種であらかじめ免疫を獲得しておくことが有効な感染対策となります。

水痘の予防接種は、2014年10月から定期の予防接種(生後12から36月までの子どもに対して2回接種)となっていますので、未接種の方は予防接種を受けましょう。

定期の予防接種についての詳細は、お住まいの市町村にお問い合わせください。

【問合せ先】

大分県福祉保健部健康政策・感染症対策課

感染症対策班 手島、一ノ瀬

電話:097-506-2665